

水稲オーガニック栽培の 技術習得による収量向上

湖北農業普及指導センター

【普及活動のねらい・対象】

長浜市のT氏は、オーガニック栽培で米を生産され、面積拡大を考えておられます。効率的に雑草を管理するため県事業を活用し乗用型水田除草機（以下、「除草機」）を導入されましたが、令和元年産コシヒカリは、欠株や雑草の繁茂により単収が330kg/10aでした。

そこで、除草機で抜けにくい中苗の育苗と、雑草抑制や除草機作業に適した水位管理を中心に技術支援を行いました。

【普及活動の内容】

中苗の育苗では、播種量を育苗箱当たり80～100gへの調整と育苗期間中の施肥について支援しました。

移植後の水位管理は、目的の水位を図示した資料と水深の数値で説明するとともに、実際にはほ場に水深スケールを設置し、数値で水位管理するように支援しました。



写真1 水深スケールで水位を管理

【普及活動の成果】

育苗では、播種量を慣行より少なくし、かつ育苗期間中に施肥することで、除草作業や深水管理が可能となる中苗ができ、枕地以外の欠株を少なくすることができました。

水位調整は、水深スケールを用い、稲の草丈に応じた深水や除草作業時の水位調整がされました。しかし、除草機作業後の調査で、一部のほ場に残草が確認されたため、除草機の高さを調整し再度除草作業の実施を助言しました。

T氏は直ぐに作業され、根が浅い雑草が上手く抜けました。

この再度の除草作業について、1年の振り返りの際、「あのやり直し作業が良かった」と感想をおっしゃいました。

この活動の結果、コシヒカリは、目標の単収420kg/10aを確保できました。令和3年度に向けて、さらなる技術改善に意欲をもって取り組まれています。



写真2 機械調整をして除草するT氏



写真3 再度の除草作業で抜けた残草

◎対象者の意見

普及指導員の方から、除草機の高さ調整をして再度除草作業をするように助言された。収穫を終えた今振り返ると、雑草対策に効果があったと考えており、機械調整の重要性が体験できた（T氏）。